



## 草木塔 3

### ⑦ヒメイワダレソウ

遠くから見ると、緑のカーペットのようで、初夏の頃白っぽい花が点在し、花の季節にはクローバのように見えます。庭の隙間に沢山植えられており、グランドカバーの基本になっているのがヒメイワダレソウ（姫岩垂草）です。低い背丈で広がるので、芝生のように使用されています。

南アメリカのペルー原産のクマツヅラ科イワダレソウ属の常緑多年草で、園芸的にはリピアとも呼ばれています。日本には昭和初年に渡来しました。成長が早く、茎は地面を這って広がります。7月から9月ごろ、淡いピンク色にオレンジ色の斑紋がある白やピンク、中間色の3~4mmほどの小花が集合し、直径1~1.5cm程度の球状の小さな花をつぎつぎに咲かせます。耐寒性や耐暑性があり、地面に這い這るように茎を出すので、丈夫で育てやすい植物で、グランドカバーに適しています。水田の畔や法面（のりめん）の雑草を抑制するためにも利用されます。おまけに小さな可愛い花も咲かせてくれることで緑化事業にもよく利用されます。不稔（ふねん）性植物で種子によって増殖することはないので株分けで増やすのですが抜いてその辺にポイしたのも勝手に根付くくらいの繁殖力です、「高速絨毯」と言われる所以です。**手間いらず。みるみる増えて、花も咲き、雑草も負かす、姫岩垂草と詠まれるように人気急上昇中のグランドカバーです。**以前は見かけなかったのですが、新しく造園される場所では盛んに植えられているようです。しかし、庭園の他の植物を駆逐して広がるので、注意を喚起する人もいます。

同じクマツヅラ科のランタナ（和名「七変化」）、美しい花を咲かせ丈夫なため、多数植えられ、また一部は野生化して、いまや、中部以南のどこにでも見られる植物になっています。旧病院の玄関にあり、よく蝶が訪れていた花です。しかし、ランタナ属は中南米や南欧原産の約150種の低木または多年草を含む。熱帯・亜熱帯では広く野生化し、オーストラリアや東南アジアではやっかいな雑草として問題になり、世界の侵略的外来種ワースト100に選定されています。ヒメイワダレソウがそんな風になっていくことが危惧されます。

### ⑧ビヨウヤナギ（美容柳・未央柳）

梅雨のころセンターの入口辺りに、直径5cmほどの5弁の黄色の美しい花を咲かせているのがビヨウヤナギ（美容柳）です。



旧病院玄関のランタナ（七変化）と  
ツマグロヒョウモン

オトギリソウ科の半落葉低木ですが、中国原産で、約 300 年前に日本に渡来し、よく栽培されています。キンシバイにも似ていますが、特に雄蕊が長く多数あり、よく目立ちます。先がやや垂れ下がり葉がヤナギに似ているので、ビヨウヤナギと呼ばれますが、ヤナギの仲間ではなく、中国では金糸桃と呼ばれています。ビヨウヤナギに未央柳の字を当てる由来は、白居易の「長恨歌」に**太液の芙蓉未央の柳此にむかいて如何にしてか涙垂れざらむ** と、玄宗皇帝が楊貴妃と過ごした地を訪れて、太液の池の花を楊貴妃の顔に、未央宮殿の柳を楊貴妃の眉に喩えて 未央柳の情景を詠んだ一節があり、美しい花と柳に似た葉を持つ木を、この故事になぞらえて未央柳と呼ぶようになったといわれています。また最近「美容柳」などを当てることも多いようですが、語源は不明で、単に未央を美容と置き換えたもののようです。



## ⑨ ノシラン・ノシメラン・ヤブラン ・ジャノヒゲ・玉龍

庭園の木陰を中心にグランドカバーとして多数植えられている細長い 30cm ほどの暗緑色の葉が、ノシラン、縦の白い線のあるのがノシメランであり、初夏に白い小さい花が咲きます。ノシラン(熨斗蘭)は関東以西の本州、四国、九州、琉球諸島の海岸近くの林のなかに生える常緑の多年草です。葉は光沢のある深緑色、夏に白い清楚な花を開き、秋には鮮やかなコバルトブルーの実が熟し、3 月ごろまで冬枯れの中で特に目立ちます。葉の形から、ランの名前がついていますが、ユリ科の植物です 名前の由来は、茎も葉も火熨斗(ひのし:昔のアイロン)で伸ばしたように平べったいことからきています。葉に白い線のある園芸品種は、ノシメランと名付けられています。ところどころにこれより葉が少し大きく、青い花が咲くものがあり、これが藪ランです。葉の斑入りのものも、市中に普及しており、駅からセンターに来る間にも植えられています。



ノシラン・ノシメランの花

銅像・養育院本院碑の前の石畳の間に植えられているのがタマリユウ(玉龍)です。ノシランと葉の形が似ているジャノヒゲ(蛇の髭)は、日本各地の林床などに自生する常緑の多年草です。蛇には髭がないはずだからと竜の髭になり、葉が短く苗がてまりのようになるのが玉竜であるということです。しかし、元をたどると、「尉(じょう)の鬚」の意であり、能面で老人の面を「尉(じょう)」といい、この葉の様子をその面の鬚(あごひげ)に見立てたもので、ジョウノヒゲが転訛して、ジャノヒゲになったと考えられます。



玉竜・タマリユウ(玉龍)



斑入りのヤブラン(藪蘭)